

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	通正 使用 経路	感染症(PID)	出典	概要
												狂犬病	YOMIURI ONLINE (2008年11月22日 読売新聞)	2008年11月22日、厚生労働省は、フィリピンで犬にかけられた横浜市の60歳の男性が狂犬病を発症したと発表した。男性は重体。今月17日には、やはり、フィリピンで犬にかけられた京都市の男性が、国内では36年ぶりに狂犬病で死亡している。同省では「海外で犬などにかけられたら、速やかにワクチン接種をしてほしい」と呼びかけている。フィリピンでは年間250人前後が発症。WHOの推計では、狂犬病による死者は世界で年間5万5000人に上り、インド、中国などで特に多い。
												クロスリジウム感染	YOMIURI ONLINE (2007年2月22日 読売新聞)	千葉県船橋市立医療センターは22日、同県内の50歳の男性が、主に牛の病気の原因とされる「気腫菌」に感染し、死亡したことを明らかにした。人への感染が報告されたのは世界初である。気腫菌は傷口などから動物の体内に入り、筋肉が壊死する「気腫」を発症させる。同センターは、「気腫菌は人には感染しないというのがこれまでの常識だった。詳しい感染経路を調べるのが今後の課題」としている。
												鳥インフルエンザ	Curr Opin Infect Dis 2006; 19: 401-407	中国ではヒトと食用動物とが密接に接触するため、多数の微生物が動物からヒトへ伝播する。重症急性呼吸器症候群(SARS)とトリインフルエンザは動物を起源とするウイルス感染で呼吸経路で伝播する。これらの発生、増幅、拡大における中国生鮮市場の役割について総括した。中国生鮮市場では食用動物や野生動物が生きたまま売られているため、遺伝子の再配列、相換え、突然変異のよな種々のメカニズムにより、ウイルスは新しい遺伝子を獲得したり、存在する遺伝子が修飾される。
												ウイルス感染	EID 2006; 12(12)	南アフリカで2006年初めにコウモリに引っかけられた後、狂犬病様の疾患で死亡した77歳男性から、Duvenhageウイルスが分離された。その地点から約80km離れたところで、36年前にそのウイルスによるヒト感染が1例だけ報告されていた。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Eurosurveillance weekly releases 2006; 11(12)	米国で3例目のvCJD症例が確定された。サウジアラビアで生まれ育った若年成人で、2005年後半から米国に住んでいる。2006年11月後半にアデノイドおよび脳生検により確定診断された。この患者に輸血歴やヨーロッパ訪問歴はなく、子供の頃にサウジアラビアでBSE感染牛製品を摂取したことが原因と思われる。この患者に供体血歴はなく、公衆衛生学的調査により、米国住民への伝播の危険はないと同等された。